6．井上　羽菜氏（福岡県立小倉高等学校）

「未来につなぐためには、一人ひとりが地域のことを「自分事」として考えることが必要。」

井上　羽菜（いのうえ　はな）
北九州市出身。
これまで、「北九弁」に関するイベントを考案してコンテストに応募したり、ミライ・トーク in 小倉北区にパネリストとして参加したりしてきました。今後は、大学で地域創生の理論と実践力を身に付けるとともに、様々なイベントの運営に積極的に関わりながら地域貢献に携わっていきたいと思います。そして、北九州市の活性化をリードする人材になりたいと思います。

「過去の伝統を未来につなげていく」

小学校の授業で、北九州市には公害克服の歴史の中で培ってきた高い環境技術があると習いました。これは今後も引き継いでいくべきであると思います。

また、小倉祇園太鼓や、わっしょい百万夏祭りなどの文化・伝統も今後も継続できるようにしてもらいたいです。市民が様々な形で参加するように工夫することで、「自分たちの祭り」であるという意識が高まり、演者と観客が市民としての一体感を感じることができるようになると思います。そうすることで多くの人が北九州市に対する愛着を感じるようになり、地域コミュニティが活性化していくのではないでしょうか。

以前お祭りに参加した際に、ごみを管理するボランティアの方々がいました。そのような「演者」「観客」だけではない、新しい祭りへの関わり方も周知することが必要だと思います。

「豊かな自然も未来に」

自然が豊かであることも今後も引き継いでほしいです。市外の人には工業のまちとして知られていますが、区役所の近くにも自然があるなど、自然が豊かなまちであると思います。また、タケノコといった特産品など、食べものもおいしいです。自分ひとりで買い物をすることはまだありませんが、地域の食材のポップを見て地元食材を買うこともあります。小学校でも地元食材を使った献立がありました。地産地消には今後も力を入れてほしいです。

「今後を担う人材の育成も必要」

北九州市の今後を考えるにあたって、人材の育成も必要だと思います。地域創生の原動力は、地域のことを「自分事」として考えることです。小中学校の課題解決などの学習活動でそういった考えは醸成されると思います。

「中高生が自分の意見を言う場が必要」

以前、ミライ・トークという、中高生も含めた北九州市の将来について議論するイベントに参加しました。選挙権を持っていない中高生は、なかなか社会に意見を言う機会がありませんが、このイベントでは、あらゆる世代の方がいて、多くの人に自分の思いを聞いてもらえるという非常に貴重な経験ができました。そういった場は非常に大切であり、今後も必要であると思います。

パネリストとしての発表だけではなく、市民の方々との意見交換でも自分の視野が広がりました。あらゆる世代の人に自分の意見を発し、また、あらゆる世代の人の意見を聞くというこ

とが重要であると感じました。

「北九州市にずっといたいと思わせるために」

人口減少対策としてU・Iターン施策をやっていますが、市外に出ていく可能性のある中高生に向けた、北九州市にずっといたいと思わせるような取組も必要ではないでしょうか。

中高生が北九州市について考えることに意味があります。SDGs アクションプランコンテストなどのような形で、北九州市についてのアイディアコンテストを行って、北九州市に愛着を持つきっかけをつくることが必要だと思います。

「北九州市を楽しんでもらうために」

小倉駅の南口には多くの施設があり、栄えていますが、北口には人の流れがあまり見当たらず、スタジアムなどの市外から多くの人が訪れる施設もイベントが終わればすぐに帰ってしまう人が多いように思います。アミューズメントを楽しんでもらえるように、北口の施設整備を行った方が良いのではないでしょうか。

また、北九州市にはいろいろな食べ物や観光地があるので、北九州市の観光パックのようなものを提示するほか、外国語でのキャプションを付けて海外に発信するなど、広報に力を入れると良いのではないでしょうか。何かに自分からアクセスしないといけない形ではなく、受け身の人にも届くような工夫があれば良いと思います。市外の人に良さをアピールするには広範囲の発信と、情報にアクセスしやすい設計が重要です。デザイン専門の民間企業と連携しても良いのではないでしょうか。北九州市にはデザインクリエイターが多く居るように思います。

「社会変革に対応できる企業の誘致を」

まちの活性化に向けて、今あるものを活かすのも重要ですが、外からの働きかけも必要です。

デジタル技術関連の企業や、IT 企業などの、今後の社会変革や、環境の変化に適応できるような企業を北九州市に誘致してほしいです。

「みんなが快適に過ごせる空間の形成を」

都市整備の観点からいうと、快適で魅力的な都市空間の形成に向けて歩行者の視点に立ったまちなか整備を行ってほしいです。

荷物を持ってまちを歩いていると、歩道が狭く感じることがあります。高齢者・子連れにとって段差はあまり良くありません。歩行者の視点に立って、歩道の拡幅や段差の解消が行われれば良いと思います。また、使えるお金が限られている学生向けに、屋外や公共施設内に休憩所があると良いと考えます。

今後少子高齢化が進むことが予想されますが、高齢者がまちなかに行くのが億劫にならないような整備も行う必要があると思います。

「おもしろさあふれるまちにむけて」

令和 2 年度の市民意識調査では、多くの人が住みやすいまちであると回答しており、子育てしやすい環境ランキングも高くなっています。また、医療・福祉も充実しているので、幅広い世帯にとって暮らしやすいまちであると思います。それを維持しながら、そのうえで「面白い」の要素をプラスすることが必要ではないでしょうか。

産業面では、環境技術・グローバル企業の商品開発力があると思います。企業の誘致や地元企業の海外へのマーケティング、異業種コラボレーションによる新産業の創出の支援を行っていくと良いと考えます。稼げるまちの実現にもつながるのではないでしょうか。福岡市と比較しても地元企業の技術力は高いと思います。効率化を目指したコラボレーションだけではなく、「アニメ×商店街」など意外性のあるコラボレーションをしたらもっと面白いことができるのではないでしょうか。